

月刊西谷会計

平成29年9月号



【薬剤師 夏子の部屋～蜘蛛～】

ねぶたも終わってしまいました、あとは雪が降るのを待つばかりの青森市民の夏子です、こんにちは。

今年の夏は近所に咲いているお花を毎日観察しました。朝出勤するときに通る道沿いのマンションの花壇やお家の前庭、家庭菜園等を毎朝見るのです。去年まではぜんぜんっ見ていませんでした。でも今年はずんずん目に入ってくるのです。今までだっっていろんなお宅の庭や花壇にはきれいな花や樹木があったはずです。目にも映っていたはずです。だけど何にも見ていませんでした。今までは見えてはいましたが、見ていなかったということの様です。何故こんな変化が起きたかという、今年我が家でも初めてプランターで植物を育ててみたからなのです。

面白いと思ったのは簡単にできると思っていたけど、案外難しい。

小学校で習った朝顔とひまわりとどんどん増えると書いていた紫蘇だよ、植えたの。ちょちょいで終わりだと思ったんですが、これがなかなか結構毎日心配で、お世話をしているうちに近所の花壇や庭の草花が目に入って来るようになりました。いろんなお花が咲いています、しかもお庭や花壇もとっても素敵にきれいに作ってあります。なんで今まで気付かなかったんだろうと不思議に思いました。

毎朝見ながら歩いていると家庭菜園の成長も楽しみです(よそのお宅の)。上がふさふさしているおそらく野菜、あれはなにが収穫できるのかな？気になるけど謎は解けない(よそのお宅のだから)。

実がなってる木を家の前に植えているお家があります。はじめは小さかった緑の実が段々大きくなってきました。近づくと良い香りがします。イチジクじゃないかなーっと思っているのですが、ネットで調べるとイチジクは寒さに弱く福島以北や秋田以北では育たないとか書いてあります。同じ木がある家を二軒は見つけましたからこの辺でもポピュラーな木のように、なんだろうな？木になってる実はまだ赤くはなっていませんが、イチジクのジャムのラベルに描いてあるイラストそっくりな緑の実を付けています。少し前に剪定していて、その枝が道路に沢山落ちていた時通りかかりました。実はどうしたのかな？この後どうなるのかまだまだ観察しようと思います。

我が家の植物はどうなったかという、ひまわりはいち早く先満開の時期も長くてとても楽しめました。紫蘇は「わっ」とプランターから盛り上がりはみ出るほど葉を付けましたが、あっという間に虫に食われて全滅です。朝顔は一つのプランターだけ可憐に花を咲かせています。他の2つは花は咲かず葉っぱだけですがつるがぐるぐると巻き付き格好いいです。

朝顔のつるの間やプランターの間には蜘蛛が巣を作っています。壊さずに育てています。巣がどんどんでかくなっていて蜘蛛自体も成長してカラフルな体がかっこよくなりました。我が家の園芸で今年一番の成功者は、蜘蛛だと思います。



【今月の経営～不正が発生しない仕組みを作る～】

今月はTKC事務所ニュース8月号より、「不正が発生しない仕組み」の記事を紹介します。

○どうして社内不正が起こるのか？

①職員が長い間一人で担当している

中小企業では、現預金の出納と記帳、請求書の発行と代金回収、値引き・割引の承認と売上計上などの業務を1人の従業員が継続して行うことが多いと思います。そのため、第三者によるチェックが入りませんから、いかようにも操作が可能となります。

②不正を発見する仕組みがない

職員が一人で長い間担当していない場合でも、社内で物品や金銭の取扱ルールが不明確な場合には、不正に気づきにくくなります。業務とその管理を区別することで、内部牽制機能が働きます。

③公私混同が見受けられる

オーナー企業では、私的費用と会社の経費の支払いが混同される例がよくあります。公私混同は、会社の金銭・物品への取扱いに対する従業員の意識をルーズにさせる一因になりやすいといわれています。

○不正の事例とその対策例

【事例①】金券類の不正な換金

経理担当者が、切手、収入印紙、商品券を必要以上に購入し、金券ショップで換金していた。税務調査で、収入印紙の購入枚数と使用枚数の確認調査が行われ、不正な換金が見つかった。

【対策例】

- 購入と管理を業務分担し、同一人物が行わないようにする。
- 金券類の購入枚数や使用目的などをチェックするために「受払簿」を作成する。
- 金券類の受払いの際には、払出管理者と使用者が受払簿に確認印を押す。
- 金券類の使用頻度が少ない場合は、ストックの上限を決めて購入する。

【事例②】在庫の水増し

商品管理担当者が、在庫品の横流しをしていた。経理担当者が、在庫集計表と各倉庫のたな卸表を突合したところ、帳簿の記載より実際の在庫が少なかったことから、在庫の水増しが見つかった。

【対策例】

- 出荷は、必ず営業責任者が承認した出庫指示書に基づいて行う。
- 実地たな卸には、経理部門の責任者か社長が必ず立ち会う。
- 実地たな卸の結果、数量不足があれば、その原因究明を徹底する。
- 倉庫管理者から不良品や破損・毀損等として報告された在庫は、経理責任者や社長が確認する。

【事例③】個人使用分のつけ回し

営業社員別の経費分析をした結果、個人的な飲食代を交際費として会社につけ回したり、カラ出張などが見つかった。

【対策例】

- 交際費や交通費の支出は事前申請とする。
- 予め、交際費の予算を役職別、個人別に決めておく。
- 交際費や交通費の精算は、予め、1週間以内など短期間で行うようにする。

【事例④】仕入先からのリベート

仕入担当者が、仕入先からのリベートを会社に報告せず、着服していた。

仕入先の税務調査の反面調査をきっかけに、不正が見つかった。

【対策例】

- 「販売奨励金規約」や「リベートに関する覚え書」などを交わし、リベート額を書面で明確にしておき、内容は社長が確認する。
- リベートの受取りを銀行振込にする。



【所長の本棚より～陸王～】

本日紹介するのは「陸王」、半沢直樹シリーズで人気を博した池井戸潤氏の小説です。100年間足袋を作ってきた老舗企業が新規事業としてランニングシューズの開発に挑むという内容で、500ページを超える大作です。一時期は本屋さんに山積みされていたので、ご記憶の方も多いと思います。勿論フィクションですが、設定や登場人物がリアルというか生々しいほどで、中小企業の実態をととてもよくとらえており、本当にあった話かと思うほどです。

部隊となる会社の名は「こはぜ屋」、足袋作りは同業者が毎年のように廃業していく衰退業種です。十数人の従業員は、ここ何年も新規採用はなく高齢者ばかりです。資金はなくて運転資金の借入で精いっぱい、設備はボロボロで廃業した同業者からはミシンの部品を集めてなんとか生産を維持しています。参入するランニングシューズについてのブランド力はなく、画期的な新技術もなく、商品の販売ルートもなく、ないない尽くしの会社です。そんなギリギリの状態の会社が、ランニングシューズ業界のガリバー企業に立ち向かう物語です。

面白いと思ったのは、組み合わせだということです。全然接点のない技術、全然接点のない素材、全然接点のない流通ルート、全然接点のない専門家、全然接点のない会社が、主人公の熱意でつながっていきます。それぞれは全くバラバラで、当時者自身がその有用性に気づいていないものが、新しいランニングシューズの開発には必要なものとして組み合わせられていきます。非協力的な人のさりげない一言が組み合わせに繋がったりと、既存の概念を超えた新しいものが創造されていくプロセスが、フィクションではあっても非常に緻密に描かれています。

中小零細企業の会社の社長は皆、自分の事業を継続するために四苦八苦しています。この先何年間やっていけるのか、後継者はどうするのか、本当はやめたいけど借金があから辞めることができないなど、先の読めない時代に経営者の悩みを挙げればきりがありません。勇気の出る一冊です。



【所長のつぶやき～渋谷にある二軒の酒屋～】

本日紹介今月号では、とある方から聞いた【渋谷の二軒の酒屋の話】を紹介します。

その昔、東京は渋谷に二軒の酒屋があったそうです。二軒とも同じような店構えで同じような商品を扱っていました。店のマスターは30歳半ばで、かわいい奥さんがいて子供は男の子と女の子が一人ずつ、先代からの家族経営でマスターが自転車で配達に出かけている間は、奥さんが店番しておりました。お店は間口も奥行きも同じくらいで、どちらのお店で買い物しても大差はないと思われました。ところが実際は方の酒屋は繁盛していて、もう一方は普通の酒屋だったのです。この差はどこからきたのでしょうか。

答えはビールの注文があった時の対応でした。普通の酒屋はビールの注文があった時に、倉庫からビールケースを持ってきてそれを配達していました。一方で、繁盛している酒屋は注文があると冷蔵庫から冷えたビールを取り出してそれを配達していたのだそうです。つまりあらかじめ配達するビールを冷やしておいたのです。ビールは冷やすのに時間がかかります。注文する立場に立つとわかりやすいのですが、あらかじめ冷えているビールが届いたほうが、注文してから口にするまでの時間が少なく済むというわけです。

で、謎解きが終わった後でこれからが本題です。皆さんの会社にとっての冷えたビールはなんですか？

お金をかけないアイデアであることがポイントですね。割と気楽に問いかけができそうな質問なので、社内的にも議論できそうなテーマです。西谷会計事務所でも考えてみようと思います。



今月号をもって、メルマガはしばらくお休みすることといたしました。就任した役職が増えたこともあって時間的に記事を書くことが難しいこともあるのですが、ネットでの発信は慣れてくるとつつい筆が軽くなってくるものです。役職が公なこともあって、いろいろと気を付けようと思えるようになった次第です。

メルマガはちょうど3年間続けました。またパワーアップして再開しようと思いますので、その時まで一時のお別れとなります。発行当初と比べると、我ながら内容もずいぶん充実したなあと考えています。長い間のご購読、どうもありがとうございました。
西谷俊広



安心がここにある。
西谷俊広 税理士事務所

〒030-0821 青森市勝田二丁目6-18

TEL:017-774-2315 FAX:017-774-1765

西谷会計 青森市 検索